

ハーモニー



2024.2



特集

変わる家庭観と職業観

- ・「昭和モデル」から、すべての人が希望に応じて活躍できる「令和モデル」へ
～男女共同参画白書(令和5年版)より～
- ・漫画を通してみる新しい家庭観・職業観
- ・現役大学生に聞いてみた「変わる働き方と家族の形についてどう思う?」

interview

災害と男女共同参画

災害現場に必要な
“企画力”育成を

30号記念「ハーモニーのあゆみ」

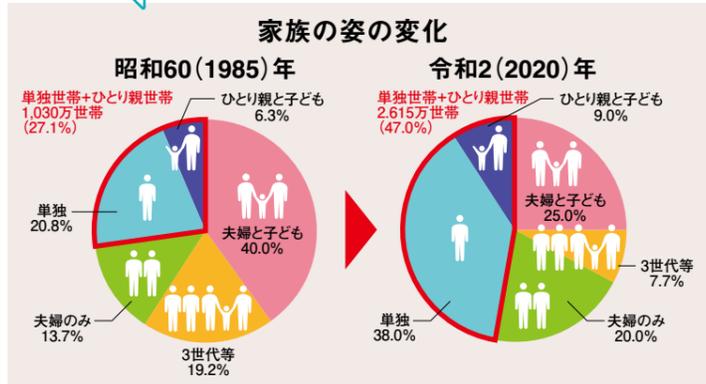
昭和モデルから 令和モデルへ

すべての人が希望に応じて活躍できる

～男女共同参画白書(令和5年版)より～

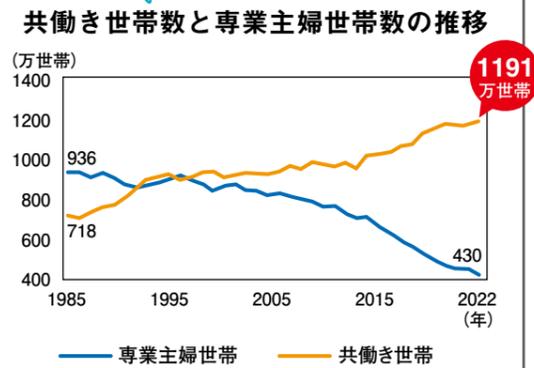
時代とともに家族の姿は変化し人生は多様化していますが、いまだに「女性・男性はこうあるべき」といった固定的な性別役割分業の考え方が残っているという現実もあります。しかし、人生100年時代を迎え、若い世代を中心に生活様式や働き方についての意識は変わりつつあります。今こそ「男性は仕事、女性は家庭」という考え方の「昭和モデル」の社会から、誰もが希望に応じて家庭や仕事で活躍のしかたを選択できる「令和モデル」の実現へ向かうときです。内閣府が毎年発行している男女共同参画白書(令和5年版)から、家族の変化、女性の働き方、若い世代の意識を見てみましょう。

全世帯の40.0%を占めていた夫婦と子ども世帯が減少し、単独世帯・ひとり親世帯の合計が47.0%に



1. 総務省「国勢調査」より作成。
2. 一般世帯に占める比率。施設等に入っている人は含まれない。
[3世代等]は、親族のみの世帯のうちの核家族以外の世帯と、非親族を含む世帯の合算。
3. 「子」とは親族内の最も若い「夫婦」からみた「子」にあたる続柄の世帯員であり、成人を含む。

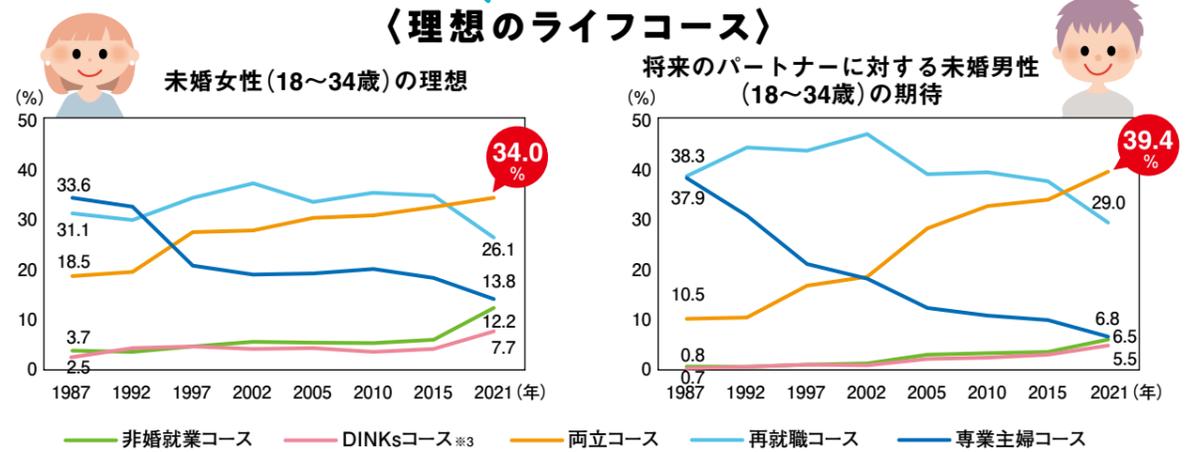
共働き世帯が専業主婦世帯の約3倍に



1. 総務省統計局「労働力調査特別調査」、総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」より作成。
2. 「専業主婦世帯」は、男性雇用者と無業の妻から成る世帯(妻64歳以下)。「共働き世帯」は、雇用者の共働き世帯(妻64歳以下)。

若い世代の結婚後の理想のライフコースは男女とも「両立コース※1」が「再就職コース※2」を上回る

※1 結婚し子どもをもち、仕事も続ける。
※2 結婚し子どもをもつが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事をもつ。



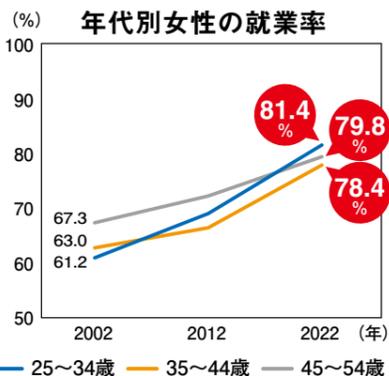
生活の中の時間増減希望

		減らしたい (%)	増やしたい (%)
仕事時間 (子どもがいる)	女性 (n=865)	23.2	28.6
	男性 (n=941)	34.1	16.6
家事・育児時間	女性 (n=1,142)	33.5	14.4
	男性 (n=959)	14.1	27.7

女性は「仕事の時間を増やしたい、家事・育児の時間を減らしたい」
男性は「家事・育児時間を増やしたい、仕事の時間を減らしたい」
という傾向がみられる

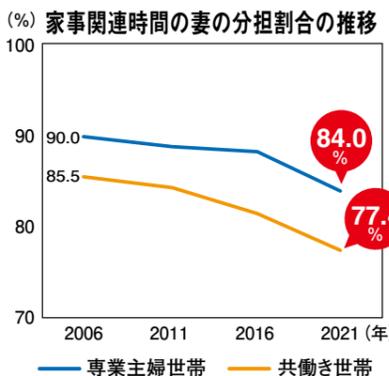
1. 「令和4年度新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査」より作成。
2. 「該当なし」は除外。

どの世代でも女性の就業率は上昇している



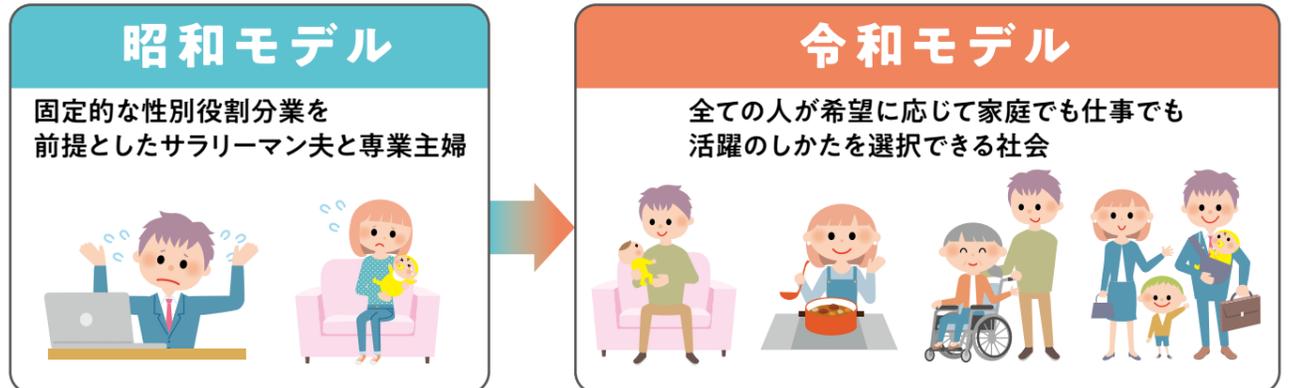
総務省「労働力調査(基集計)」より作成。

妻の家事・育児の負担割合は徐々に減っているけれど、依然として高い



1. 総務省「社会生活基本調査」より作成。 2. 6歳未満の子どもをもつ妻。
3. 「家事関連時間」は「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計。

家庭観・職業観が変化する今こそ、令和モデルの実現へ



- 実現するために 特に優先すべきこと
- ☆ 男女ともに自分の希望が満たされ、能力を最大限に発揮して仕事ができる環境の整備
 - ☆ 男女ともに仕事と家事・育児等のバランスが取れた生活を送ることができること
 - ☆ これらを下支えする前提としての女性の経済的自立

漫画を通してみる新しい家庭観・職業観

昭和モデルから
令和モデルへ

社会の主な出来事	単行本出版年
1945 第2次世界大戦終戦	1946 サザエさん(長谷川町子)連載開始
1955~1973 高度経済成長期	1985 「男女雇用機会均等法」成立
1985 「男女雇用機会均等法」成立	1986 クッキングパパ(うえやまとち)
1986 クッキングパパ(うえやまとち)	1987 ちびまる子ちゃん(さくらももこ)
1991 バブル崩壊 「育児休業法」成立	1992 クレヨンしんちゃん(臼井儀人)
1995 阪神淡路大震災発生 「育児介護休業法」に改正 「世界女性会議(北京開催)」	1999 「男女共同参画社会基本法」成立 日本女性会議'99はままつ開催
1999 「男女共同参画社会基本法」成立 日本女性会議'99はままつ開催	2001 「DV防止法」成立
2001 「DV防止法」成立	2002 「浜松市男女共同参画推進条例」成立
2002 「浜松市男女共同参画推進条例」成立	2007 きのう何食べた?(よしながふみ)
2007 きのう何食べた?(よしながふみ)	2008 リーマンショック
2008 リーマンショック	2009 キャリア こぎつね きののまち(石井まゆみ)
2009 キャリア こぎつね きののまち(石井まゆみ)	2011 東日本大震災発生
2011 東日本大震災発生	2013 あいホール完成
2013 あいホール完成	2013 逃げるは恥だが役に立つ(海野つなみ)
2013 逃げるは恥だが役に立つ(海野つなみ)	2014 ちひろさん(安田弘之)
2014 ちひろさん(安田弘之)	2015 「女性活躍推進法」成立
2015 「女性活躍推進法」成立	2017 違国日記(ヤマシタトモコ)
2017 違国日記(ヤマシタトモコ)	2020 浜松市「パートナーシップ宣誓制度」導入
2020 浜松市「パートナーシップ宣誓制度」導入	2021 海が走るエンドロール(たらちねジョン)
2021 海が走るエンドロール(たらちねジョン)	2022 「困難女性支援法」成立

違国日記
(全11巻)
ヤマシタトモコ
祥伝社 2017年



ドラマ・小説・漫画などで描かれる登場人物や社会状況。それぞれの作品はその時代を切り取り、家庭観や職業観を私たちに示してきました。

戦後まもなく新聞の4コマ漫画として連載がはじまった『サザエさん』では、三世同居家族の姿を描いています。時は過ぎ高度経済成長期とともに働く女性や核家族が増え、1985年には男女雇用機会均等法が成立しました。しかしまだ「女性は家庭、男性は仕事」という意識が強い時代のなか、翌年に登場した『クッキングパパ』では「料理をする男性、働く女性」という新しい姿が描かれました。一方で、同時期の『ちびまる子ちゃん』、バブル崩壊後に登場した『クレヨンしんちゃん』は、依然として夫と専業主婦、その子どもを中心とした家族の日常を描いており、過渡期にあることがうかがえます。

1991年にバブル経済が崩壊すると、社会の価値観は大きく変化しました。夫婦を中心とした核家族から、若者や高齢者の単独世帯が増加していきます。2000年代になると、『きのう何食べた?』『違国日記』のように同性パートナーや血縁関係のない家族など、多様な家族の形をテーマにした作品が登場するようになります。「寿退社」「永久就職」などといった言葉は女性の生き方を表現するのにふさわしくないという風潮となっていきましたが、依然として「仕事か家庭か」と悩む女性は多く、その選択は簡単ではありませんでした。『キャリア こぎつね きののまち』『ちひろさん』『海が走るエンドロール』に登場する女性たちは、職業や自分の人生と向き合い、女性の生き方は「こうあるべき」という考え方に悩み、恋愛・結婚・家族だけが女性の幸せなのかという疑問を読者に問いかけます。

『逃げるは恥だが役に立つ』では、家事労働の対価やさまざまな結婚の形という視点を取り上げられ話題になりました。漫画は娯楽のためだけではなく、目まぐるしく変化していく社会を反映している家庭観や職業観、そして「〇〇らしさ」を乗り越えていく人々の姿といった社会の多様性をいち早く反映してきたことが分かります。

ちひろさん
(全9巻)安田弘之
秋田書店 2014年



このページで紹介した漫画について詳しく紹介しています。「あいホール 図書コーナー」で検索、またはQRコードで。



現役大学生に聞いてみた

変わる働き方と家族の形についてどう思う？

若い世代は親世代に比べ、働き方や生活様式についての意識が変わってきていると言われていますが、実際はどのようなのでしょうか。静岡大学で社会学を学ぶ学生さんに話を聞きました。



川本怜さん(3年) 大和柊哉さん(4年) 酒井晴名さん(4年)
3名とも静岡大学・情報学部・情報社会学科(笹原研究室)

笹原研究室:インタビューやアンケート調査といった社会調査の手法を用いて、ジェンダー、女性の労働、地域自治などの社会学的研究を行っている。

—就職活動中に、就職先を選択・決定する上で意識するポイントは何ですか？

大和:就活では、勤務地は実家から近いところを、ほかに勤務時間、残業時間、年間の休みなどを見て会社を選びました。

酒井:私も就活では、会社の年間休日とワーク・ライフ・バランスを見つつ、同じくらい仕事内容や社風を見て、実際に会社に行って先輩の話を聞き、雰囲気を見て決めました。

川本:私は3年生ですが、会社説明会では有給取得率や年間休日、職場環境などを確認しています。

—もし将来結婚して子どもができたなら、どんな働き方をしたいですか？

酒井:私は女性が社会で活躍するという点でも、結婚・出産してから仕事と家庭を両立したいです。社会的にも、両立が主流になっていると思います。

大和:自分は家のことを進んでやるつもりです。性別役割分業の考え方が緩和し、女性の社会進出が進むのは良いことだと思います。

川本:私は結婚して子どもができたなら家庭に時間を費やしたいので、経済的事情で働く場合でもパートで働いて、なるべく家庭に時間を割きたいです。



※50歳時の未婚割合をみると、1970年は男性1.7%、女性3.3%であったが、2020年は男性28.3%、女性17.8%と、それぞれ上昇している。(国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」より)

—いわゆる昭和の考え方(男性は仕事、女性は家事育児)についてはどう思いますか？

川本:自分が昭和の時代に生きていたらその道しかないの、働くことへの憧れはあったかもしれませんが仕事を辞めていたと思います。今はいろいろな選択肢があるので、「仕事を辞める」という同じ結果でも、自分で選んでいるところが昔と違うと思います。

酒井:私も昔なら専業主婦になっていたと思います。実際、小さいころは専業主婦になりたいと思っていました。社会の流れで選択肢が増えたから、自分の考えも変わってきたのかなと思います。

大和:昭和に生きていたら、「(男の)自分が絶対働く」と思いますが、今なら相手が仕事に専念してもいいと思います。現実的にそれが難しいのは、男性と女性の給料に違いがあって、男性が働く方が経済的メリットがあるからかなと思います。

—昔は結婚する人が多かったのですが、現在は減っています。将来結婚については考えますか？

全員:結婚はしたいです!

川本:でも無理して相手を探したいとは思いません。良い人に出会ったら結婚したいです。結婚は選択肢の一つでしかないと感じています。

酒井:何が何でも結婚したいとは思いません。でも、親には老後とかを考えて結婚した方がいいよと言われる。事実婚でも、一緒に暮らしていく人が現れたら安心すると思います。

大和:自分も絶対結婚したいというよりは、良い人が現れたら結婚したいです。

災害現場で必要な“企画力”育成を

近年大雨による洪水や土砂災害など、各地で自然災害が増加しています。実際の現場では女性の視点を取り入れた対応ができてい



浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワーク「はままつna net」事務局長 **鈴木 まり子さん**

東日本大震災でファシリテーターとして活動したのをきっかけに、日本各地の被災地で支援活動を行っている。NPO法人日本ファシリテーション協会フェロー

近年、女性の防災リーダーのコミュニティは増えています。静岡県は、女性防災リーダー養成に力を入れており、そこで学んだ人たちが、各地域で精力的に活動をしています。しかし、実際の災害現場で男女共同参画の視点を取り入れた対応ができてい

苦しく辛い状況の中で、もっとこうしてほしいという要望が出てくると思いますが、災害対策本部は既存の対応をするだけで精一杯です。重要なのは、自分たちで“用意する”ということ。「自分たちでやるので許可をください」と言えたら、実現できる可能性が高まります。これからは、女性の企画力を育てる取り組みも必要だと思います。

備蓄品として何が必要か考えるとき、「女性が」というより「私が」という視点で考えてみるといいと思います。子どもがいる人、生理がある人、介護が必要な人、それぞれに必要なものがあるはず。例えば、避難所生活が長くなると、なかなかメイクもできません。眉毛が薄くて気になってしまうという人は、アイブローを持ち出し品に入れておくといいでしょう。お子さんなら普段食べているお菓子があれば、避難所生活で気持ちが落ち着きます。すべてのものをそろえるのは難しいですが、「これだけはあってほしい」というものは用意しておくといいですね。

2021年に発生した熱海での土砂災害の時、私が避難所に入った時には避難所責任者や支援物資担当も男性ばかりで、女性が生理用品を受け取りにくい状況でした。そんな状況の中、私は女性の支援物資の配布会や、おしゃべり会を企画しました。チラシを作り開催場所を決め、担当者の協力を仰ぎ、行政の許可をもらって開催しました。

災害時の基本として知っておいてもらいたいのは、災害時に必要なのは“提案”ではなく、“企画力”なんです。

避難所生活を考えるきっかけに

はままつ女性カレッジ修了生が出席

静岡県・浜松市・湖西市総合防災訓練の一環で開催された防災イベントが2023年9月3日、浜松市ギャラリーモールソラモ(中央区)で開催され、女性人材育成講座「はままつ女性カレッジ」修了生の調査レポートが展示されました。「避難所生活を想像してみよう」というタイトルで、2016年の熊本地震を経験した育児中の女性へのアンケート結果や、震災後に改正された熊本市の避難所開設・運営マニュアルなどが紹介されました。



防災をテーマにしたパネル展示

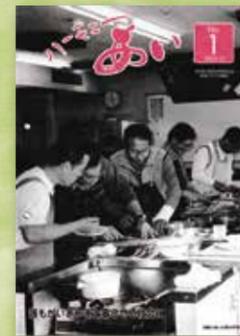
女性カレッジの修了生から説明を聞いた来場者は、「今まで避難所のことを具体的に考えたことはなかった。よいきっかけになった」と感想を話していました。

EVENT

浜松市の男女共同参画推進のための情報誌

ハーモニーのあゆみ

ハーモニーが30号を迎えました。1977年創刊の「青年婦人館だより」、1992年創刊の「舞香(まいか)」の2誌を引き継ぎ、2003年に「ハーモニー あい」が創刊されました。2009年「ハーモニー」に名称を変え、男女共同参画について皆さんに広く知っていただけるよう、さまざまな情報をお届けしてきました。これまでのあゆみを振り返ります。



ハーモニーあい1号 2003年10月

2003年4月に浜松市男女共同参画推進条例が施行されました。青年女性センターが「男女共同参画推進センターあいホール」に変わり、同年10月に本誌が創刊されました。



ハーモニーあい4号 2005年3月

浜松市内の小中学校への出前講座でのアンケート結果を報告しました。「男は仕事、女は家庭」という考えに対する反対意見に、女子70%、男子51%と差が見られました。



ハーモニー13号 2009年10月

13号から名称が「ハーモニー」に変わりました。ドメスティックバイオレンス(DV)については11号で初めて特集し、この号では関連してデートDVを取り上げました。以降もDV防止に関する啓発記事は繰り返し登場しています。



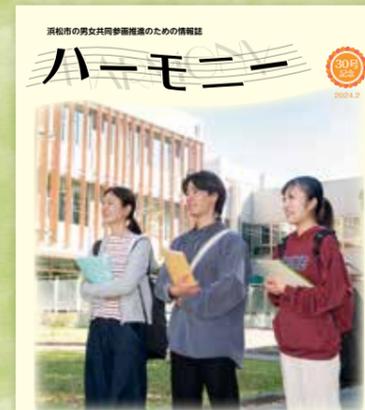
ハーモニー16号 2011年2月

「浜松のイクメンに聞く」では育休を取得した男性社員のインタビューを掲載。22号では「イクボス」を紹介しています。



ハーモニー21号 2015年2月

女性活躍を促進している企業や、起業した女性を紹介しました。続く22号では、女性活躍推進法について解説しました。



ハーモニー30号 2024年2月

変わる家庭観と職業観
「結婚を前提に、すべての人が職業に就いて活躍できる社会を子ども、孫の世代に引き継いでほしい」と、子育て世代の女性たちが訴えている。その声に耳を傾ける。子育て世代の女性たちが訴えている。その声に耳を傾ける。



ハーモニー26号 2020年2月

スポーツにおける女性活躍を特集。浜松市のパートナーシップ宣誓制度の記事、SDGs、LGBTQについて解説しました。

あいホール

図書コーナーより

男女共同参画に関する書物が多数所蔵されている、あいホール図書コーナー。図書コンシェルジュの池谷さんに「家族と職業」に関するおススメの本を紹介していただきました。

あいホール



パパのカノジョは

ジャニス・レヴィ 作／クリス・モンロー 絵／もん 訳／岩崎書店/2002年

パパの彼女は、金魚にオペラを歌い、鉢植えに話しかける風変りな人。けれど私の話は最後までちゃんと聞いてくれるし、くやしい時は一緒にくやしがってくれるのです。血縁や性別、年齢に関係なく人が一緒に生きることは自分も相手も大切にすることだと感じさせてくれる絵本です。



「わたしが管理職になるのも悪くない」と思える本 もっと女性が活躍できる未来への思考法

木須 八重子 著／ごきげんビジネス出版ブランディング/2023年

社会が女性リーダーの必要性に気付き始めた今、管理職を目指す女性が少ない現状があります。理由は管理職に秀でた強さや決断力、統率力が必要だと思込んでいるから。そうではないこれからのリーダー像を示し、私でも管理職になれるかもと思わせてくれる働く女性への応援本です。



実証実験

生理用品を提供するIoTディスペンサーを設置

(アイオーティー)

浜松市はシャープ株式会社に委託し、公共施設の女性用トイレ(一部多機能トイレ)内に生理用ナプキンを提供するためのIoTディスペンサーを設置する実証実験を行いました(2024年3月末まで)。

設置されたのは市役所、中央図書館、あいホール、市立高等学校の4か所です。

2021年に行った「生理の貧困」のアンケートによって、「外出先での急な生理への対応」「女性だけが生理用品の費用を負担する不公平感」といった課題が明らかになりました。こうした課題への対策の一つとして、IoTディスペンサーを設置しました。配布するナプキンは、市の防災備蓄品のうち使用期限が近付いているものを利用しました。こうした防災備蓄品を有効活用したIoTディスペンサー設置の取り組みは全国初です。

利用者アンケートでは「トイレにナプキンがあればとても助かる」「もっとディスペンサーの設置が広がればいいと思う」といった声が寄せられました。



写真：シャープ株式会社提供
手をかざすと1枚ずつ取り出せる

編集後記

防災について、もっと関心を持っていきたいと思いました。いつ起こるかかわからない災害だからこそ、いろいろなことを後回しにせず、今できることをする。備蓄品の見直しも毎年必ずしたいです。(M.Y)

自分が結婚したころは、「両立コース」より「再就職コース」を選択する人が多かった時代です。特集の男女共同参画白書のグラフを見て、社会は変化してきているんだなということを感じました。(F.K)

社会にあった当たり前が少しずつ変化しています。「こうあるべき」といった前提を疑い、自分自身にもかかっているその呪縛を解いていきたいです。漫画の中の主人公は、悩ましくも強くて清々しい。(H.A)

今までのハーモニーを振り返ってみて、「世の中がこうなったらいいな」と思っていた方向へ少しずつ変わってきたように感じました。普段はなかなか気づきにくいことなので、うれしく思いました。(K.Y)

わが家はいわゆる昭和モデルの家庭です。このままだと、子どもたちがこれからの時代を生きていくときに苦勞するかもしれません。少しずつできる部分から令和モデルにアップデートしたいです。(T.A)

表紙撮影：芝宮ちかこ

浜松市の男女共同参画推進のための情報誌

ハーモニー

市公式HP でも閲覧できます。

- 発行：2024年2月 浜松市
- 編集・制作：特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会
- お問合せ：市民部 UD・男女共同参画課
〒430-8652 浜松市中央区元城町103番地の2
TEL:053-457-2561 FAX:053-457-2750
- 印刷：刷：東海電子印刷株式会社

この印刷物は再生紙を使用しています。

